多賀城市文化財調査報告書第67集

市川橋遺跡

―城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報4―

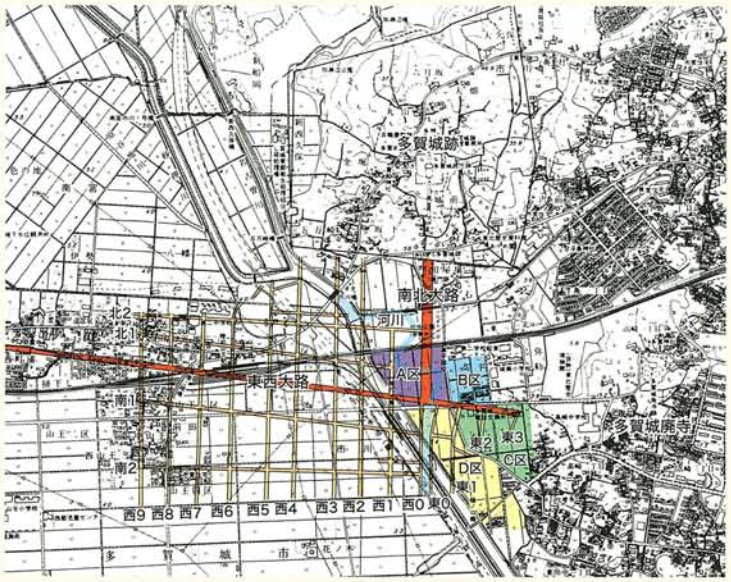
平成14年3月

多賀城市教育委員会
多賀城市城南土地区画整理組合

はじめに

第28次調査は、D区(南西ブロック)北半部とC区(南東ブロック）の一部を対象として実施した。調査面積は約10,000㎡である。

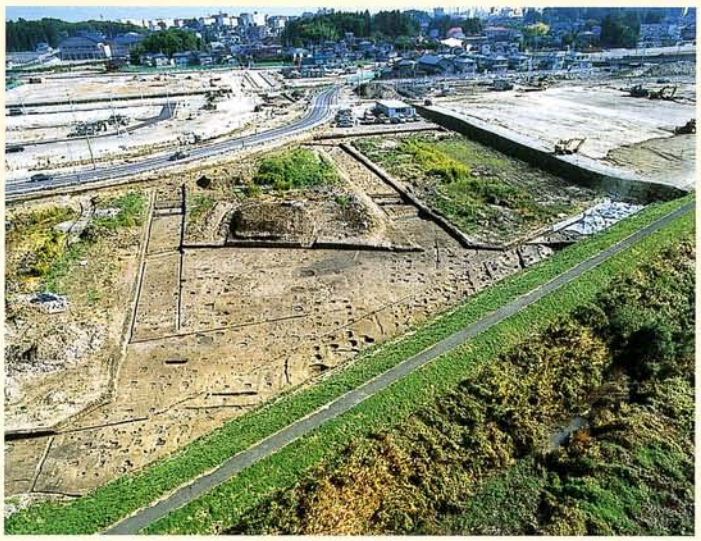
今回の調査区は南北・東西大路の交差点の南東に位置している。これまでの調査において、大路に面した区画には重要な施設の存在が知られており、今回の調査においても同様の成果が想定された。また、調査区北西部は南北大路の延長線上にあり、東西大路の南側における南北大路の検出について、今回の調査に期待がかかっていた。



城外の方格地割りと調査区の位置

1.発見した遺構の概要

100区では東西大路の南側における南北大路の在り方を追求するため広い調査区を設定した。その結果、南北大路の推定線上は古代から近代に至る河川の流路となっており、その痕跡すら確認できなかったが、東西に伸びる運河状の大溝とその先端に構築された橋状遺構を発見した。105区では北半部で東0道路を発見した。これは、西0道路と同様に南北大路の延長線上を直線的に延びる河川に沿って建設されたものである。27区では平安時代から近代に至る河川を調査し、それらの流路の変化を把握することができた。出土遺物も多く、特に平安時代の堆積土からは多量の土器類や動物遺体が出土した。その南側に位置する101区はすべて河川の流路となっており、この位置で西側に大きく屈曲するものもあった。83区北半部では、東西方向に流れる古い河川を検出した。C20区（第26次調査）において発見した8世紀後葉頃の河川と同一のものと見られる。その延長部分は110区でも検出した。83区の南側では東1道路を検出し、103・104・30・92区においてもその延長部分を確認できた。102区では南1道路を発見し、105区において東0道路との交差点も検出することができた。111区では南1・東1・東0道路で画された10世紀中葉頃の区画を調査し、城外においては比較的新しい段階まで機能していたことが知られた。



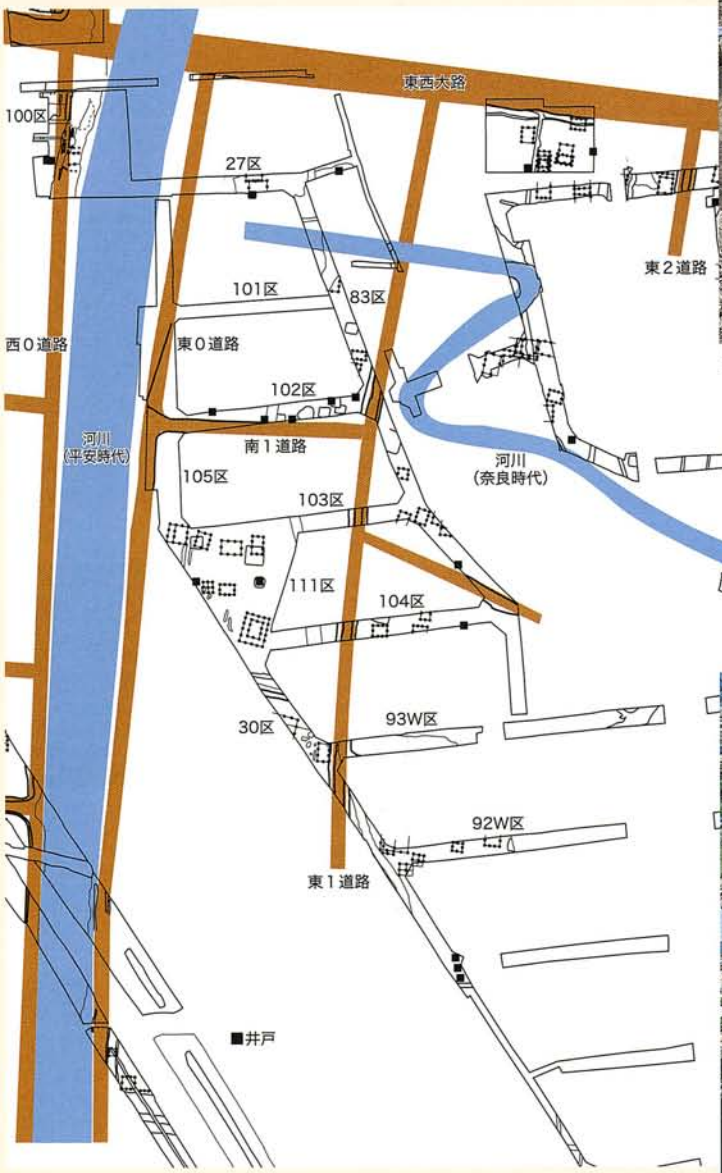
111区　西より

105区　上空より

100区　上空より

83区　8世紀後葉頃の河川　北より

83区　東1道路調査風景　南より



110区　南東上空より

100区の調査　東西大路の南側では南北大路を確認することができなかった。しかし、その推定線すなわち政庁中軸線は古代都市多賀城の南北基準線として常に意識されていたようだ。８世紀後葉にはその東側を流れる自然の河川との間に運河が掘削され、中軸線上に橋状遺構が建設されている。８世紀末頃になると河川を直線的に改修してその東西両側に東０・西０道路が建設され、東西大路に接続している。さらに９世紀後半以降になると井戸や土壙が設けられる場所へと変化している。

西０道路側溝と橋状遺構　橋状遺構は平安時代の河川を掘り下げて発見した　南上空より

人形出土状況

漆紗冠出土状況

運河と橋状遺構　橋状遺構は直径25㎜の丸太材を打ち込んで構築している　西より

隆平永寶（原寸）

槽出土状況

調査風景　西より

27区の調査

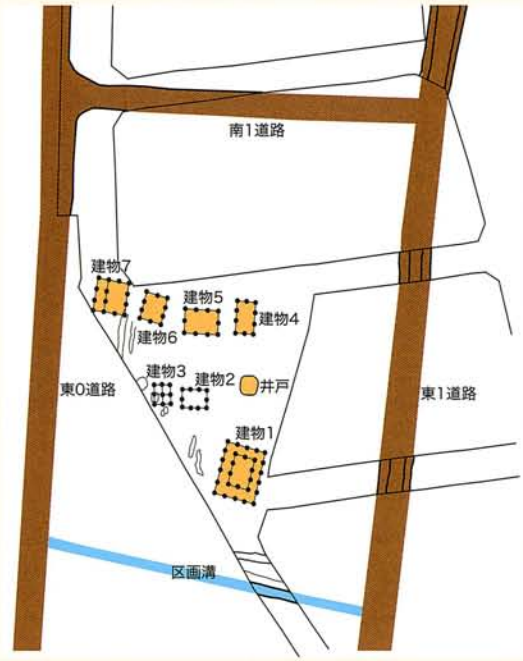
27区の中央部から西側にかけてはすべて河川の流路であった。各時期の河底からは土器をはじめ多量の遺物が出土した。

9世紀の河川　遺物は河底の窪みから集中的に出土した。西岸付近には護岸の杭が打ち込まれていた。

木簡出土状況

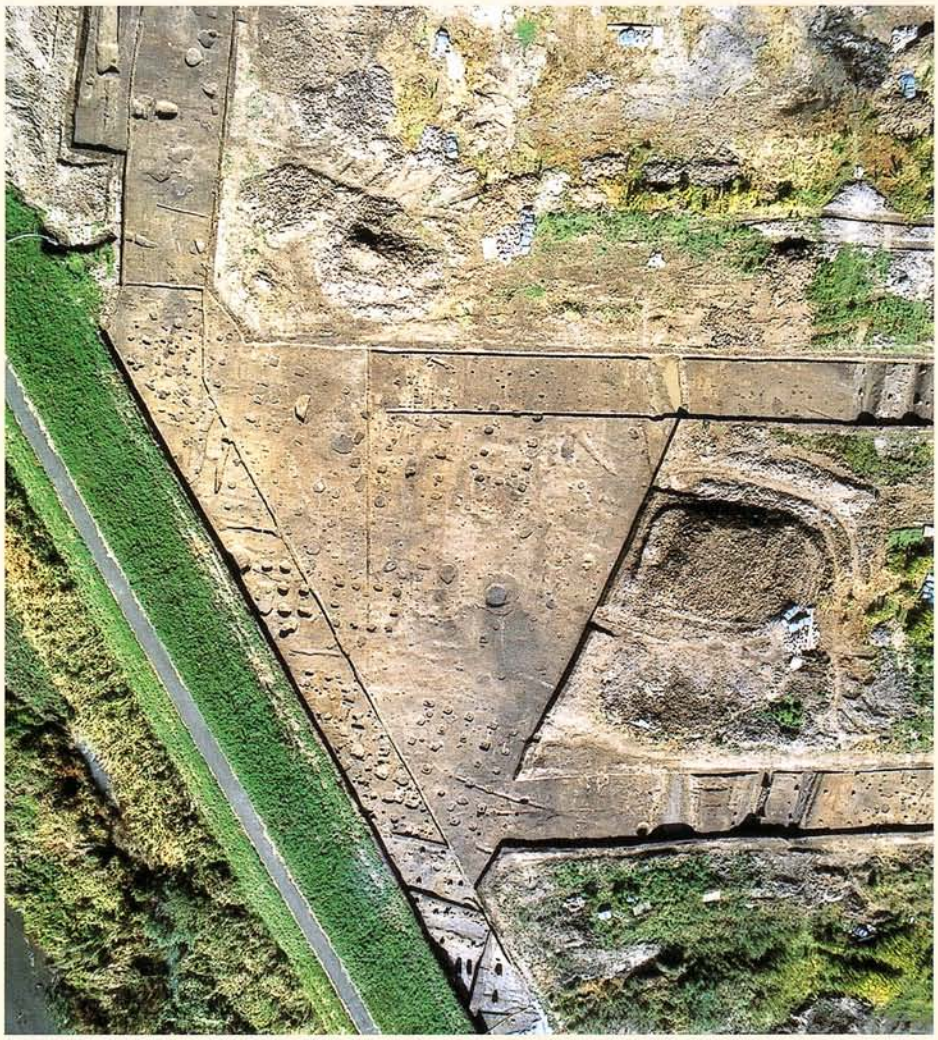
調査風景

27区の東半部では小規模な掘立柱建物・井戸・竪穴状遺構などを発見した。 南より

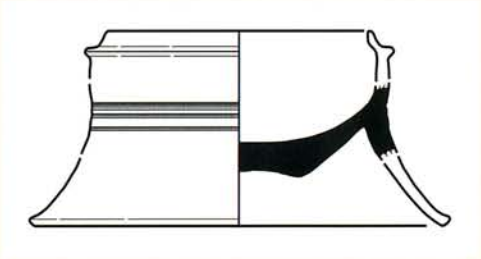


111区遺構配置図

須恵系土器出土状況



111区航空写真



青磁香炉　S=1/3　火を受けて釉の表面が荒れている　井戸跡出土

111区の調査

南1・東1・東0道路に面した区画を調査した。南側には区画溝があり、敷地の広さは南北約90m、東西約70mである。やや南寄りに主屋と見られる四面庇付建物があり、その北側には4棟の建物が南妻や南側柱を揃えて並んでいる。この4棟の建物と主屋の中間には井戸が設けられている。これらは火災に遭っており、その後再建された形跡はない。年代は多賀城政庁が衰退する10世紀中葉頃と考えられる。

東０・１道路と南１道路

東０道路は105区、東１道路は83・103・104・30区、南１道路は102区でそれぞれ検出した。東１道路の方向は103区から南側では南北大路と同じ方向であるが南１道路との交差点（推定）付近より北側では東西大路と直行する方向を採っている。

このように、城外の道路は南北・東西大路のいずれかに方向を合わせて建設されているが、方格地割りの周縁部や微高地の縁辺部などでは方向に規則性が見られない道路が発見されている。

D区中央部航空写真

①104区　南より

②103区　南より

③102・105区　東０・南１道路の交差点　西より

④106区　方向の異なる道路　北西より

北2道路
南北大路
北1道路
橋
東西大路
100区
27区
県教委調査区
(水入遺跡)
河川
(平安時代)
101区
83区
東2道路
城南地区航空写真

多賀城南面の道路と河川

奈良時代、多賀城南面を横断する河川は北西から南東方向に蛇行して流れていた。平安時代になると直線的に政庁中軸線上を流れるように改修し、その両側に東0・西0道路を建設している。城外の整備を行うに際し、陸路のみならず水上交通の便も考慮していたと考えられる。

104区　縦板組の井戸

111区　横板組の井戸

30区　刻書のある笛が出土した井戸

102区　丸太刳り抜きの井戸

井戸跡

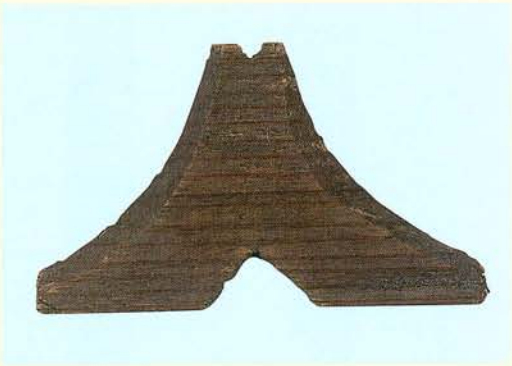
調査区全体で15基発見した。側板をもつ構造のものがほとんどであり、横板組、立て板組み、丸太刳り抜き材を利用したものなどがある。井戸側内からは、墨書土器、挽物皿、刻書のある笛などが出土している。

2. 発見した遺物

平箱で約400箱出土した。多量の土器をはじめ、木簡、漆紙文書、人面墨書土器、墨書土器、青磁、白磁、木製品（皿・椀・合子・下駄・櫛・曲物・人形・斎串・刻書のある笛など）、金属製品（帯金具・隆平永寶・萬年通寶・鉄鏃・刀子・釣針等）、卜骨、動物遺体（ヒト、ウマ、ウシ、イヌ）などを発見した。特に、木簡が約50点（荷札・題箋・習書・削屑等）と城外の調査で最も多く出土しており、人面墨書土器、人形、斎串などの祭祀遺物が多数出土していることが注目される。

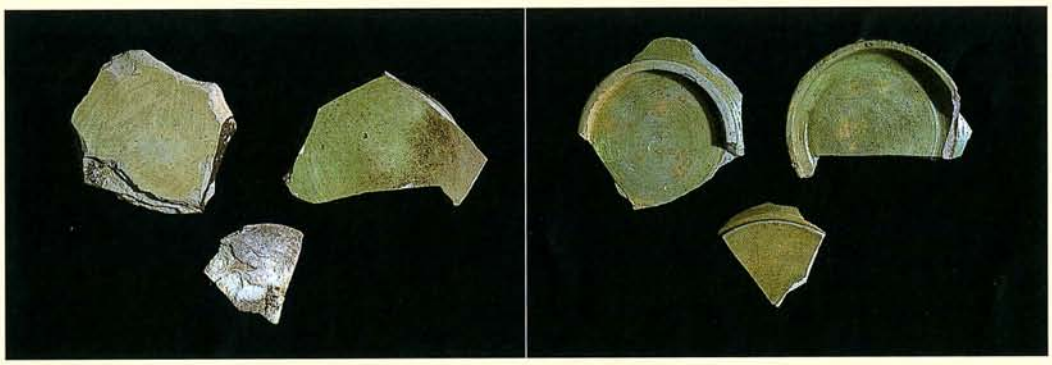
刻書のある笛　S：1/2

挽物・高台付皿　S：1/3

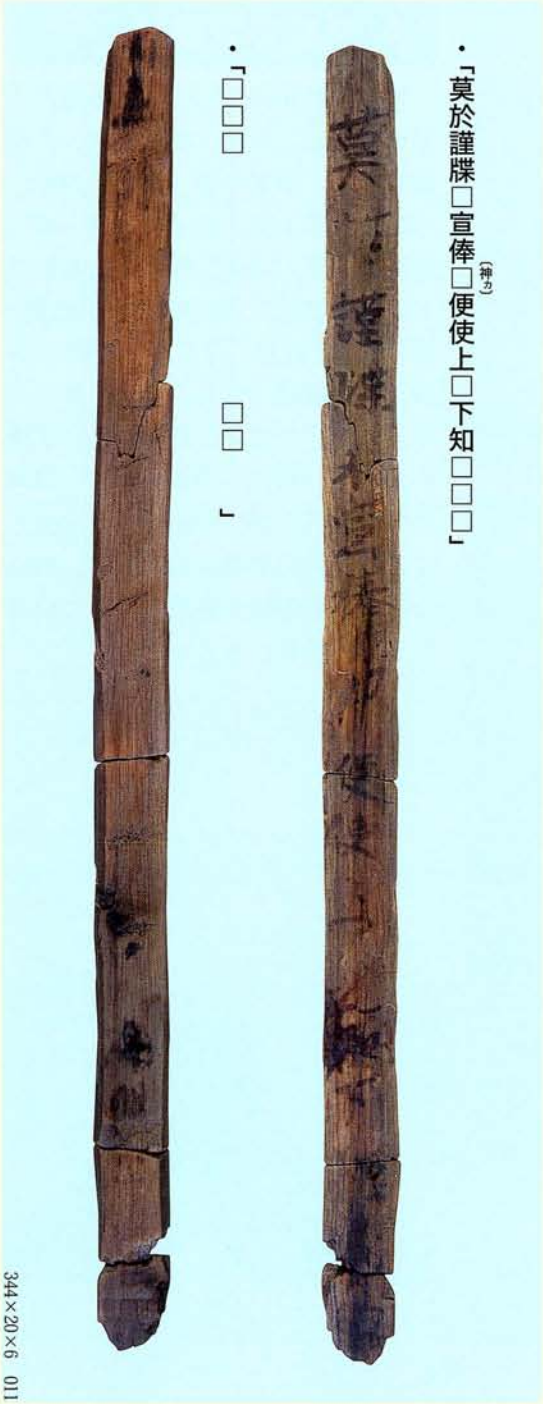


琴柱　S：1/1

火鑽杵・火鑽臼　S：1/3



緑釉陶器　S：1/4



・「莫於謹牒□宣俸□便使上□下知□□□」（神カ）

・「□□□　□□　」

344×20×6　011

×□封送三□（ヘカ）右封□今月廿四日×

□訖仍還使占マ小国返抄□

(288)×32×7　019

木簡

今回の調査で木簡が64点出土した。特に東西大路に面した100区およびその周辺に集中している。付札や題箋、習書など様々なものが見られる。

釈文は暫定的なものであり、今後の調査で変更される場合がある。

・「□（籍カ）壹裏百串　」

・「□□宝字三年三月廿一日」

103×(22)×4　021

・「収納借貸正税貳×

・「　延暦十九年□×

(133)×28×5　061

墨書土器

施設の名称と見られるもの（□館）、まじないの記号（#）を記したものなど様々なものが出土している。

□
舘
舩（船）
田
酒
東
千
本
大夫
大夫□
□大　大
里
春
佐
玉
日
下
金
石成
厨
余
乙主
坐（地の則天文字）
出
舌（正の則天文字）
只
（日の則天文字）
（記号）
□
□□大
□
井
上
中
下
大

人形・馬形・刀形・鏃形　S：1/3　（1～7 人形、8・9 馬形、10 鏃形、11 刀形）

舟形　S：1/4

形代と人面墨書土器

人形、馬形、刀形、舟形、鏃形などの形代や土器に顔を描いた人面墨書土器が多量に出土した。これらは河川跡から集中的に出土しており、水辺で祭祀を執り行った様子が窺われる。

人面墨書土器

最下段右３点はスケール任意。他は全てＳ：1/3

1　本書は、平成13年度に実施した市川橋遺跡第28次調査の略報である。
2　発掘調査は多賀城市埋蔵文化財調査センターが担当し、４月17日から12月21日まで実施した。
3　発掘調査から資料整理に至るまで、宮城県教育庁文化財保護課、宮城県多賀城跡調査研究所、東北歴史博物館、多賀城市城南土地区画整理組合、大木建設（株）よりご指導・ご協力を賜った。また、文字資料については平川南氏（国立歴史民俗博物館）、石崎高臣氏よりご教示を得た。
4　本書の執筆・編集は埋蔵文化財調査センターの千葉孝弥・鈴木孝行が行った。

多賀城市文化財調査報告書第67集
市川橋遺跡
―城南土地区画整理事業に伴う
発掘調査略報４―
平成14年３月20日　発行
編集　多賀城市埋蔵文化財調査センター
多賀城市中央二丁目27番１号
電話（０２２）３６８－０１３４
発行　多賀城市教育委員会
多賀城市中央二丁目１番１号
電話（０２２）３６８－１１４１
印刷　今野印刷株式会社
仙台市若林区六丁の目西町４－５
電話（０２２）２８８－６１２３